

学生コンペ最優秀賞

路地と町家で京再生世界に発表

【コンヤ(トルコ) 11日社会報道部 下尾芳樹】トルコ・コンヤ市で開かれている世界歴史都市会議で十一日、京都市が昨年、全国の学生から募った京都まちづくり学生コンペで最優秀賞を受賞した京都大学院生グループ四人が、受賞作品を発表した。



世界歴史都市会議のコースフォーラムで、まちづくり案を発表する京都大学院生たち(トルコ・コンヤ市のホテルコンヤ)

学生コンペは市景観・まちづくりセンター(下

京区)の設立十周年記念事業で、市が昨年九月に職と住が混在する市内中心部の将来像を描く作品を募集。最優秀賞に歴史都市会議で発言できる副賞をつけたところ八十六

組から応募があり、最優秀賞には京都大学院の都市環境工学専攻の学生グループが発表した「京都毛細血管血流促進細胞活性化計画」が選ばれた。

同計画では市内中心部

京大院生ら 歴史都市会議で

の「田の字」地区の路地を「単なる移動ではなく、その先に何かがあるという好奇心を駆り立てられる空間」と考え、NPO

(民間非営利団体)が町家などの建て替え資金を補助する代わりに敷地の一部提供を受け、新しい事業を展開する。

発表した関川華さん(29)ら京大生グループ四人は、今回から設けられた同会議の学生ユースフォーラムで、木造の町家が残る市内を紹介しながら、狭い路地を生かした未来のまちづくりを熱く語った。メンバーの芝崎耕平さん(23)は「多くの関係者が集まる国際会議で発表し、極めて貴

重な経験になった」と満足のうちに話した。フォーラムに参加したコンヤ市のセルジュク大し学んでいきたい」と興の学生らは「トルコは石造りの建築物が中心。京都の木造建築は健康にも良さそう、今後交流を深めてもらおうと、熱心に視察

京の市民ら

熱心に視察

スタディツアー

世界歴史都市会議に十日の開会式や十一日の会議を視察する特別ツアーを今回初めて企画し、十人も参加し、熱心に視た。



京都市のほか福岡市などからも参加があり、藤本英子さん(49)は「京都市が中心となった国際会議を見たかった。今後もツアーを続けてほしい」と話し、西山徳明さん(47)も「都市計画が専門なので、有意義で面白い体験ができた」と喜んでいました。

察している」写真。市は、世界の文化遺産保護やまちづくりに関心を深めてもらおうと、